

株主の皆様へ

第71期報告書

〈平成30年1月1日～平成30年12月31日〉



株主の皆様へ



目次

株主の皆様へ	1
経営基本方針、 21世紀のヤマザキの経営方針	2
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
当社グループの店舗網	12
製品情報	13
社会貢献への取組み	15
財務諸表（連結）	17
財務諸表（単体）	19
YAMAZAKIインフォメーション	20
株式の状況等	21
グループ概要	22
株主メモ	裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。
さて、ここに当社グループ第71期事業年度（平成30年1月1日から平成30年12月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申しあげます。

当期を振り返りますと、西日本地方を襲った豪雨をはじめ、夏場の記録的な猛暑や北海道における地震など、異常気象や自然災害が相次いで発生し、売上面でも大きな影響を受けた一年でありました。製パン業界では、お客様の節約志向が根強く、加えて人手不足を背景とした人件費や物流費の上昇、またエネルギーコストの増加や原料費の高騰など厳しい経営環境となりました。

当社では、引き続き、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進する中で、昨年2月に神戸工場を稼働し、食パン、菓子パンの主力製品を集中生産して関西・中四国地区を中心にフレッシュな製品供給を開始するとともに、7月にはパン類の主力製品の値上げを実施しました。下期に入り、猛暑の影響もあって消費マインドが冷え込み、パン類の販売数量が伸び悩みましたが、ルヴァン種を活用した新製品開発や品質向上に積極的に取り組むなど、売上回復につとめました。

当期の業績につきましては、売上が伸び悩む中で、人件費や物流費、エネルギーコストの増加に加え、神戸工場稼働に伴う減価償却費の負担増もあり減益となりました。

当社は、昨年、創業70周年の節目の年を迎え、新しい経営陣による新経営体制を出発させました。現在、各部門毎のあるべき姿を追求し、一つひとつの課題に着実に取り組む体制づくりをいたしております。

次期につきましては、本年10月に消費税率の引上げが予定されており、お客様の節約志向が一段と強まり販売競争が激しさを増すものと思われませんが、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの創業の原点に立ち帰り、「為せば成る」という創業者飯島藤十郎社主の心であるヤマザキの精神で徹底して努力するとともに、21世紀のヤマザキの経営方針に従って、生命の道の教えに導かれる部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、当社グループ一丸となって業績向上に努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげる次第でございます。

平成31年3月

代表取締役社長

飯島延浩

経営基本方針

綱領

- (1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、困難に屈することのない勇氣と忍耐とによって高い倫理的水準に導かれる事業を永続させること。
- (2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

具体方針

- ① 最高の品質と最善のサービス(今日到達しうるベストクオリティー・ベストサービスの実践、実行、実証)を目標とし、品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能な努力を注ぐこと。その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が喜びであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまでなっていること。
- ③ 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。
- ④ この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考えられること。
- ④ 産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。
- ⑤ 業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しいか、何が最善であるかを中心に考えること。
- ⑥ 顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを十分に考慮すること。配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものになるように努力すること。

21世紀のヤマザキの経営方針

当社は、21世紀の事業環境と社会の変化に対応するため、「企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進する」という顧客本位の精神で、潜在需要に着目しイノベーション(技術革新)によって需要を創造するという、前向き積極的なピーター・ドラッカー博士の経営理論に導かれる山崎製パン株式会社の「経営基本方針(綱領および具体方針)」を改めて高く掲げると同時に、これを補完するものとして、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価・顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」という、新しいヤマザキの精神に導かれ、科学的根拠の上に立った食品安全衛生管理体制の上に築き上げる科学的・合理的・効率的な事業経営手法として、生命の道の教えに従ったすべての仕事を種時きの仕事から開始する部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を実践、実行、実証することで、新しい価値と新しい需要を創造し、社会の負託に応え社業を前進

させることを21世紀のヤマザキの経営方針といたします。

事業経営の具体的遂行に当たっては、経営陣、管理職は、本物の5S・全員参加の5Sとピーター・ドラッカー博士の5つの質問を連動させる「2本立ての5S」を行うとともに、生命の道の教えに従った部門別製品施策・営業戦略をピーター・ドラッカー博士の5つの質問と連動させ、「私たちの使命は何ですか」(What is our mission?)と問うだけでなく「私の使命は何ですか」(What is my mission?)と問い、生産部門・営業部門一体となった業務を推進するとともに、内部管理体制を充実・強化して、各部門毎の自主独立の協力体制を構築いたします。また、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの精神と「知恵と知識によって変化に挑戦し、新しい価値と新しい需要を創造する」という生命の道を導く言葉によって日々の仕事の実践、実行、実証に励み、業績の着実な向上を期してまいります。

【平成30年8月2日改定】

当期における連結業績の概況

売上高	1兆594億42百万円	(対前期比 100.6%)
営業利益	243億43百万円	(対前期比 80.9%)
経常利益	266億29百万円	(対前期比 82.8%)
親会社株主に 帰属する当期純利益	135億34百万円	(対前期比 53.9%)

当期の事業の概況

当期におけるわが国の一般経済環境は、緩やかな景気回復の動きが見られましたものの、海外経済の減速により輸出の伸び悩みが生じるなど景気の下押し圧力が強まりました。個人消費につきましては、天候不順や全国各地で相次いで発生した自然災害の影響により消費者マインドが低下するなど一進一退で推移し、力強さを欠きました。

パン・菓子業界にありましては、お客様の節約志向が根強い市場環境の下で販売競争が激化しました。さらに、人手不足を背景とした人件費や物流コスト、エネルギーコストの増加に加え、原料価格の上昇もあり収益が圧迫される厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストア業界にありましては、ドラッグストアなどとの業態を超えた競争が激化するなど厳しい経営環境となりました。

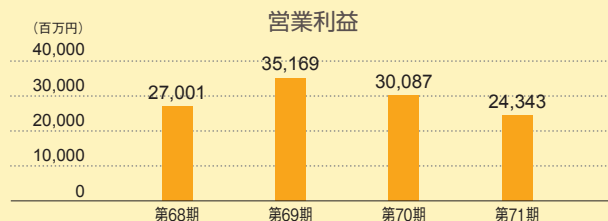
このような情勢下にあります、当社グループは、創業70周年の記念事業を実施するに当たり、ヤマザキパン創業以来70年の歩みと歴史をまとめる中で、改めて

創業の原点に立ち帰り、あるべき姿に立ち帰って、品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳選100品」を中心とした主力製品の拡販につとめるとともに、高品質・高付加価値製品を開発する一方で、お客様の節約志向に対応した値頃感のある製品を投入するなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、売上確保をはかりました。

当社は、2月1日に神戸工場を竣工稼働し、最新の生産設備と増強された生産能力を活用して食パン、菓子パンの主力製品を集中生産し、関西・中四国地区を中心にフレッシュな製品供給を推進しました。神戸工場稼働後、下期に入り売上高が予算を大きく下回ることになり、大阪第一工場の食パンラインを休止して近隣工場に生産移管を行い稼働率の向上をはかるなど生産・販売・物流体制の再構築を行い効率化に取り組むとともに、抜本的対策に取り組んでおります。

また、4月には輸入小麦の政府売渡価格が引き上げられ、これを受けて業務用小麦粉が値上げされました。小麦粉の値上げは3回連続となり、この間、人件費や物流コスト、エネルギーコストが増加していることから、当社は、引き続き高品質で安全・安心な製品を提供するため、7月1日出荷分から、食パンや菓子パンの主力70品についての値上げを実施しました。しかしながら、猛暑の影響もありパン類の需要が減少する中で、お客様の節約志向が強まり、下期は苦戦いたしました。その中で各部門毎の製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」に立ち帰り、改めて品質訴求と売場づくりによって売上向上対策を実施し回復をはかりました。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につ



きましては、コンビニエンスストア事業の種蒔きの仕事である商品開発の体制を整備し、ヤマザキベストセレクションのパンやおにぎりなど品質向上と新商品開発に取り組みました。また、「首都圏リージョン小委員会」を定期的開催して店舗一店一店の改善につとめ、ベーカリー機能の導入など店舗機能強化のための改装を推進するとともに、楽天ポイントサービスを開始してお客様の利便性の向上をはかり、来店客数の増加をめざしました。

【セグメント別の状況は5頁から11頁のとおりです。】

次期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は緩やかな回復基調が持続することが期待されますが、本年10月に消費税率の引上げが予定されており、お客様の節約志向が一段と強まるものと予測されます。

パン・菓子業界におきましては、販売競争が激化する中で、人件費、物流コストの増加や原材料価格の高止まりもあり収益面で厳しさが強まるものと予測されます。また、コンビニエンスストア業界におきましては、販売競争が一段と激化する中で、人手不足や残業規制の強化もあり経営環境が厳しさを増すものと思われま。

このような状況下にありますと、当社グループは、ヤマザキの精神に従って、引き続き品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、主力製品を中心に拡販につとめるとともに、高品質・高付加価値製品を開発する一方で値頃感のある製品を投入するなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会

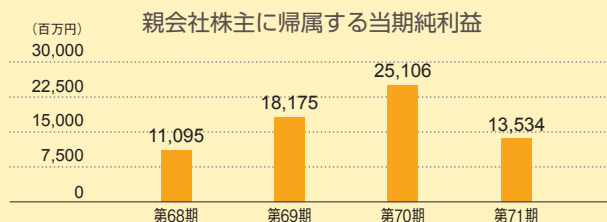
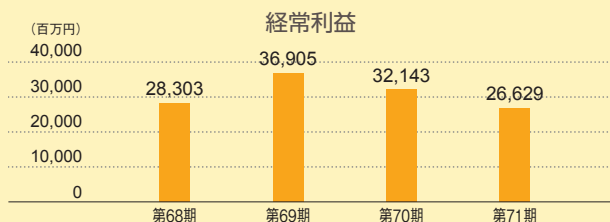
による「なぜなぜ改善」を推進してまいります。

当期は、当社創業70周年の節目の年に当たり、ヤマザキパンの創業の原点に立ち帰るとともに、ヤマザキパンの創業の精神を再確認しつつ次世代を担う経営陣による新経営体制が出発いたしました。経営体制の整備は、経営上層部だけではなく生産・営業各部門における経営体制の充実強化が求められ、現在、各部門毎のあるべき姿を追求し、一つひとつの課題に着実に取り組む体制づくりをいたしております。

また、販売面では、業態別・チェーン別の製品対応に加えて地域別の製品対応を一層強化するため、地域毎のお客様のニーズに合わせた製品を開発し積極的に提供することによって、取引拡大をはかってまいります。特に、関西地区の諸工場を中心に、中四国地区を含めて、各地区毎の製品施策・営業戦略を推進し、業績向上をめざしてまいります。さらに、当社グループ一丸となって内部管理体制の充実と業務の効率化をはかり、新しい価値と新しい需要を創造してまいります。

次期の連結業績見通し

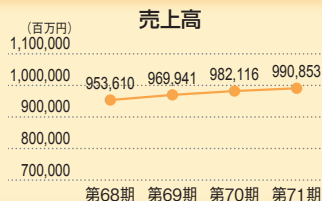
売上高	1兆740億円 (対前期比101.4%)
営業利益	285億円 (対前期比117.1%)
経常利益	305億円 (対前期比114.5%)
親会社株主に 帰属する当期純利益	160億円 (対前期比118.2%)



セグメント別の状況

食品事業

売上高 **9,908億53百万円** (対前期比 100.9%)



93.5%
売上高構成比

食パン部門 売上高 **965億54百万円** (対前期比 100.1%)

9.1%

食パンは、販売を強化した主力の「ロイヤルブレッド」が好調に推移し、おいしい健康志向製品の「ダブルソフト全粒粉」が寄与して「ダブルソフト」シリーズが伸長しました。下期に入り売上は伸び悩みましたが、自家製発酵種ルヴァンを活用した「新食感宣言ルヴァン」を9月に全国発売するとともに、11月にゴールドシリーズの新製品「くるみゴールド」を投入して取扱拡大につとめ、前期の売上を確保しました。

次期は、3大ブランドの「ロイヤルブレッド」、「ダブルソフト」、「超芳醇」を中心に、品質訴求と売場づくりを推進してまいります。ゴールドシリーズにつきま

しては、11月に発売した「くるみゴールド」の取扱拡大につとめるとともに、本年1月発売の生クリームとバターを使用したコクのある風味のリッチな食パン「クリーミーゴールド」とあわせて売場づくりを推進してまいります。また、当期発売した「ダブルソフト全粒粉」に続き、「おいしい健康志向」への取組みを推進し、新しい需要の創造をめざしてまいります。



くるみゴールド



クリーミーゴールド

食パンの3大ブランド



ロイヤルブレッド



ダブルソフト



超芳醇



新食感宣言ルヴァン



ダブルソフト
全粒粉

糖質ひかえめ
ブレッド

34.0%

菓子パン部門 売上高**3,597億75百万円** (対前期比 100.1%)

菓子パンは、下期に入り主力製品の一部で売上が伸び悩みましたが、チョコを増量した「ホワイトデニッシュショコラ」などのペストリーが好調に推移し、新規格の小ぶりサイズのコッペパンやスナックスティックが伸長するとともに、自家製発酵種ルヴァンを活用した「塩バターフランスパン」などのハードロールが大きく伸長し、前期の売上を確保することができました。

次期は、ルヴァン種を活用した品質の向上と新製品開発を推進し、量販店やドラッグストア向けにお客様

のニーズに合った値頃感のある低単価な製品を開発する一方で、デイリーヤマザキ、ヤマザキショップなどの自社業態およびコンビニエンスストア向けに高品質で付加価値のある製品の開発を推進してまいります。また、ランチパックにつきましては、主力製品に加え惣菜製品の消費期限を延長して取扱拡大をはかるとともに、全粒粉シリーズの食パンに自家製発酵種ルヴァンを使用して品質向上をはかります。



ホワイトデニッシュショコラ



アップルパイ

ランチパック
ピーナッツランチパック ツナ&チーズ
全粒粉入りパン塩バターフランスパン
(自家製発酵種ルヴァン使用)十勝産小豆のつぶあん
コッペパン

高級つぶあん

ダブルピーナッツクリーム
コッペパン

チョコスティック

セグメント別の状況

和菓子部門 売上高701億12百万円 (対前期比 98.8%)

6.6%

和菓子は、上期の和生菓子の不振対策として、主力の大福、まんじゅう、どら焼き、季節製品のおはぎや「苺大福」などの消費期限を延長して取扱拡大につとめましたところ、9月以降、売上は回復傾向となりました。次期は、和生菓子において草餅や桜餅などの季節製

品の消費期限を延長し取扱拡大をはかるとともに、和生菓子の詰合せ製品を発売し、和生菓子の販売拡大をめざします。また、中華まんにつきましては主力の「具たっぷり」シリーズの取扱拡大に加え、秋以降の品質向上に取り組んでまいります。



吹雪まんじゅう



黒糖まんじゅう



豆大福



草大福



おはぎ詰合せ



小さな道明寺・草餅詰合せ



苺大福



どら焼



串だんご



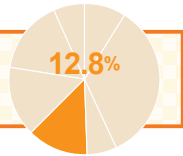
具たっぷり肉まん



特撰月餅



三角蒸しぱん



洋菓子部門 売上高1,360億51百万円 (対前期比 100.8%)

洋菓子は、主力の2個入り生ケーキや「まるごとバナナ」などのチルドケーキが伸長し、「大きなツインシュー」などのシュークリームや「イチゴスペシャル」などのスナックケーキが好調に推移し、コンビニエンスストア向け製品対応を強化した効果もあり、売上増となりました。

次期は、「モンブラン」、「チーズスフレ」などの2個入り生ケーキの消費期限を延長し取扱拡大をはかってまいります。また、洋菓子の生産ラインをフルに活用した新製品開発に積極的に取り組んでまいります。



モンブラン



まるごとバナナ



チーズスフレ



イチゴスペシャル



大きなツインシュー



ダブルロール



5つに切ったロールケーキ



カカオが香る
チョコレートサンド

調理パン・米飯類部門 売上高1,608億64百万円 (対前期比 103.6%)

15.2%

調理パン・米飯類は、「こだわりソースの焼きそばパン」や和紙包装のハンバーガーが好調に推移するとともに、(株)サンデリカにおいて大手量販店やコンビニエンスストアチェーンとの取引が拡大し、好調な売上となりました。

次期は、(株)サンデリカの最先端の炊飯設備を活用した米飯の品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、量販店やコンビニエンスストアチェーンとの取引強化をはかります。



おかず
幕の内弁当



やみつきおにぎり



こだわりソースの
焼きそばパン



お肉の旨味！
ミートソーススパゲティ



具たっぷり手巻おにぎり



あらびきポークの
ホットドッグ



ひとくちサンド



大きなサンド
ミックス

大きなサンド
野菜サンド

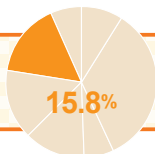


とろ～りとした
チーズのハンバーガー



てりやきハンバーガー

製菓・米菓・その他商品類部門 売上高 **1,674億95百万円** (対前期比 101.6%)



製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「ルック」などのチョコレートや(株)東ハトの「ポテコ」などのスナックが好調に推移しました。

次期は、グループ各社の特徴のある製品群を活用したカテゴリー別のブランド戦略を推進するとともに、

ヤマザキビスケット(株)につきましては、当社と一体となって「ルヴァンプライムスナック」の品質改善をはかり、「ノアール」、「ルヴァンクラシカル」とあわせて更なる売上拡大とブランドの育成をめざしてまいります。



ルヴァン
プライムスナック



ノアール



チップスター



ルヴァンクラシカル



ルック4



ルック



ミルキー



カントリーマアム



オールレーズン



ポテコ



キャラメルコーン



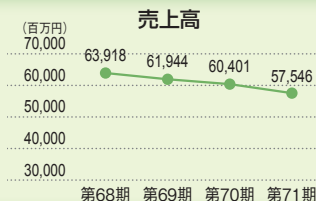
ノアールチョコレート



チップスターチョコレート

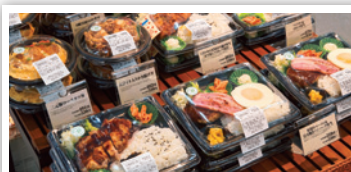
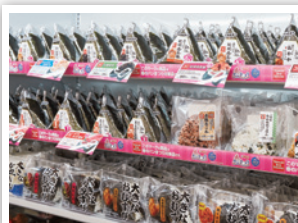
流通事業

売上高 **575億46百万円** (対前期比 95.3%)



デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、原材料の調達から見直して品質の向上に取り組んだヤマザキベストセレクションのおにぎりを2月から全国発売し、5月には「助六寿司」や「いなり寿司」の品質向上をはかり、お客様のご支持をいただくとともに、10月にはヤマザキベストセレクションのパンの全面リニューアルを実施しました。また、麺の品質向上に取り組む、調理麺が好調に推移しました。

次期は、引き続き自家製発酵種ルヴァンを活用したヤマザキベストセレクションのパンの品質向上や、米飯類の主力商品であるおにぎりの新商品開発に取り組むとともに、当社の生産各部門の体制を強化し、あわせてデイリーヤマザキ事業部門と一体となって効率の良い生産体制を構築してまいります。



デイリーヤマザキ瀬戸矢形店 (愛知県瀬戸市)

当期末の店舗数

1,493店

(前期末差 60店減)

●デイリーヤマザキ

1,131店

(前期末差 56店減)

●ニューヤマザキティーストア

337店

(前期末差 4店増)

●ヤマザキティーストアー

25店

(前期末差 8店減)

当社グループの店舗網

ニューヤマザキデイリーストア (コンビニエンスストア)



千葉：柏光ヶ丘小前店 (平成30年9月オープン)

ヤマザキショップ (地域密着型小売店)



神奈川：すえひろ商店 (平成30年5月オープン)

不二家 (洋菓子店)



東京：国分寺店 (平成30年12月オープン)

サンエトワール (フレッシュベーカリー)



静岡：静岡SA下り店 (平成30年1月オープン)

ヴィ・ド・フランス (ベーカリーカフェ)



千葉：松戸店 (平成30年11月オープン)

デリフランス (ベーカリーカフェ)



東京：高田馬場店 (平成30年10月改装オープン)

「ダブルソフト」が

「平成30年度食品ヒット大賞 ロングセラー平成貢献賞」を受賞しました

このたび、「ダブルソフト」が「平成30年度食品ヒット大賞 ロングセラー平成貢献賞」を受賞しました。

食品ヒット大賞は、日本食糧新聞社が昭和57年に制定したもので、毎年、食品業界の活性化に大きく寄与した商品が表彰されています。このたび受賞したロングセラー平成貢献賞は、平成元年に発売され30年間ヒットし続けた商品を対象にして、特別に新設された賞です。

「ダブルソフト」は、ミミまでやわらかい食パンを求めお客様の声にお応えして開発したもので、平成元年5月に全国発売しました。“ミミまでソフトでおいしい”こと、また“真ん中からふたつに割れる食べやすさ”もあり、お客様のご好評をいただき、「平成元年度食品ヒット大賞」を受賞しました。

現在でもお子様からご高齢の方まで幅広いお客様に愛され続けるロングセラー製品です。



いつだって、
どこだって。

「ランチパック」

「ランチパック」は、サンドイッチの“おいしさ”と“手軽さ”、そしてバッグに入れて携帯できる“便利さ”が特長の製品です。きめの細かいやさしい食感の食パンで具材をはさんでおり、ジャムやクリームをはさんだスイーツシリーズ、たまごやツナをはさんだ惣菜シリーズ、各地の地産食材やご当地グルメをはさんだご当地商品など、バラエティー豊かなラインナップがあります。また、全粒粉入り食パンを使用したランチパックもご好評をいただいております。

お召しあがりの際、パンのかけらや具材がこぼれにくく、また片手でも簡単に召しあがることのできる、さまざまなシーンに合わせてお楽しみいただけます。



ランチパックスペシャルサイトでは、新商品や人気商品、ご当地ランチパックなどさまざまな情報をご覧いただけます。

<http://www.yamazakipan.co.jp/lunch-p/>

テレビコマーシャル
ランチパック「Pop Up!」篇

出演 山崎賢人



いつだって、どこだって！
ぼくらのミカタ。

ランチパック



※ランチパックの出荷数のランキングです。

全粒粉シリーズ



公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団(学術文化活動)

食品科学振興のための研究助成活動を支援しています

当社は、社会貢献への取組みの一環として、わが国の食品科学における総合研究の進展のために、公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団を通じて、米麦等主要食糧に関する食品科学、食品の加工技術、食品と健康、安全性等の分野を中心に研究者への助成活動を支援しております。

飯島藤十郎記念食品科学振興財団は、当社創業者の故飯島藤十郎社主が主たる基本財産を出捐し、当社と共同で昭和59年に設立され、農林水産省所管の財団法人として着実な活動を積み重ねた後、平成25年4月に公益財団法人に移行しました。

学術研究助成事業等

当財団の設立より今日までに実施してきました助成・表彰事業の総件数は2,400件を超え、助成額では総額43億4,600万円に達しております。

食品科学分野に係わる学術研究助成では、全国の大学および附属研究機関の個人研究、共同研究を対象に1,493件、総額29億5,735万円の助成を行いました。

また、学術研究国際交流援助では、研究者の海外派遣援助、国際学術会議開催援助および外国人留学生研究助成として、309件、2億376万円の助成を行いました。

飯島藤十郎食品科学賞・食品技術賞

当財団では食品科学の学術研究および食品加工等の技術開発に優れた業績をあげた研究者、研究グループを表彰し研究奨励金を贈呈する、飯島藤十郎賞（「飯島藤十郎食品科学賞」および「飯島藤十郎食品技術賞」）を設けております。

これまでに43件、研究奨励金の総額は1億3,700万円となっております。



飯島藤十郎食品科学賞



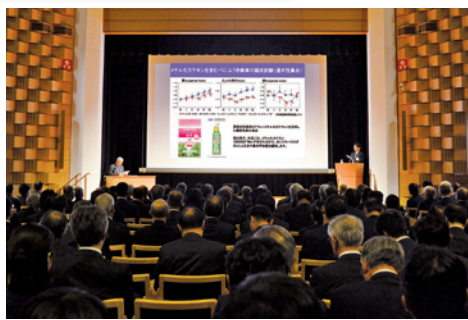
平成29年度学術研究助成金贈呈式、飯島藤十郎賞授与式並びに特定課題研究等助成金贈呈式での飯島幹雄理事長と立花宏文主幹教授

学術講演会の開催

当財団の事業活動の一環として、学術研究助成の研究
成果発表や、飯島藤十郎賞受賞者の特別講演からなる
学術講演会を毎年開催しています。一昨年に続き、平
成28年12月に竣工した山崎製パン総合クリエイショ
ンセンターの飯島藤十郎社主記念LLCホールでの2回目
の学術講演会開催となりました。また、研究成果をと
りまとめた報告書を財団年報として発行し、学術研究
成果の紹介と食品科学の知識の普及に努めております。



学術講演会が開催
された山崎製パン
総合クリエイショ
ンセンター



飯島藤十郎食品科学賞を受賞された
立花宏文主幹教授の特別講演

● 第30回学術講演会テーマ（敬称略）

個人研究

- 演題 「分子インプリンティングを用いた腸管出血性大腸菌の迅速検出」
座長 亀山 真由美（農研機構西日本農業研究センター企画部長）
講演者 椎木 弘（大阪府立大学大学院工学研究科准教授）
- 演題 「うどん中の香り・味成分の製造工程における変化とその品種間差の解明」
座長 新井 映子（静岡県立大学食品栄養科学部教授）
講演者 成澤 朋之（埼玉県産業技術総合センター北部研究所主任）
- 演題 「脂肪細胞への分化のスイッチにはたらく主要食糧由来成分の探索」
座長 駒井 三千夫（東北大学大学院農学研究科教授）
講演者 奥村 克純（三重大学大学院生物資源学研究科教授）

共同研究

- 演題 「抗ガン活性フラボノイドによる遺伝子発現制御機構の解明と臨床応用を目指した初期展開」
座長 佐藤 隆一郎（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
講演者 増田 誠司（京都大学大学院生命科学研究所准教授）

特定課題研究

- 演題 「日本人の好む食生活に定着したパンの特徴と地域性に関する研究」
座長 畑江 敬子（お茶の水女子大学名誉教授）
講演者 香西 みどり（お茶の水女子大学基幹研究院教授）

特別講演

【飯島藤十郎食品技術賞受賞研究】

- 演題 「天然吸着剤による飲料中のカフェイン除去技術の開発」
座長 大澤 俊彦（愛知学院大学心身科学部客員教授）
講演者 塩野 貴史（キリン株式会社R&D本部酒類技術研究所主任研究員）

【飯島藤十郎食品科学賞受賞研究】

- 演題 「緑茶カテキンによる生理活性発現メカニズムに関する研究」
座長 上野川 修一（東京大学名誉教授）
講演者 立花 宏文（九州大学大学院農学研究院主幹教授）

財務諸表（連結）

貸借対照表のポイント

流動資産

現金及び預金が232億11百万円減少したこと等により、流動資産合計で233億69百万円減少し、2,606億39百万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産は、神戸工場の新設や品質向上のための生産設備の更新等で71億91百万円増加、また無形固定資産は、のれんの償却等により18億78百万円減少し、有形・無形固定資産合計は3,323億68百万円となりました。当期の設備投資額は、465億76百万円、減価償却実施額は382億15百万円であります。

投資その他の資産

繰延税金資産等が増加したことにより4億37百万円増加し、1,366億96百万円となりました。

負債合計

仕入債務等の減少や借入金の約定返済により、負債合計は144億29百万円減少し、3,871億50百万円となりました。

純資産合計

利益剰余金が84億87百万円増加しましたが、自己株式の取得により43億43百万円減少し、退職給付に係る調整累計額が57億18百万円減少したこともあり、純資産合計は31億88百万円減少し、3,425億53百万円となりました。

損益計算書のポイント

売上高

調理パン・米飯類や製菓・米菓が好調に推移したこともあり、前期に比べ0.6%の増収となりました。

営業利益

神戸工場の稼働に伴う一時費用の発生や減価償却費の負担増等により売上原価率が前期を0.5%上回るとともに、物流費等が増加したこともあり、前期に比べ19.1%の減益となりました。

経常利益

経常利益は、前期に比べ17.2%の減益でした。その結果、売上高経常利益率は2.5%となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

前期に(株)不二家の固定資産売却益を計上したこともあり、前期に比べ46.1%の減益となりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期末	前期末	増減
	平成30年12月31日現在	平成29年12月31日現在	
資産の部			
流動資産	260,639	284,009	△23,369
固定資産	469,064	463,313	5,750
有形固定資産	314,694	307,502	7,191
無形固定資産	17,674	19,553	△1,878
投資その他の資産	136,696	136,258	437
資産合計	729,704	747,322	△17,618
負債の部			
流動負債	224,689	235,254	△10,565
固定負債	162,461	166,325	△3,864
負債合計	387,150	401,580	△14,429
純資産の部			
株主資本	300,862	296,718	4,144
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,667	9,667	△0
利益剰余金	285,422	276,934	8,487
自己株式	△5,241	△897	△4,343
その他の包括利益累計額	12,120	19,443	△7,323
非支配株主持分	29,570	29,580	△10
純資産合計	342,553	345,742	△3,188
負債純資産合計	729,704	747,322	△17,618

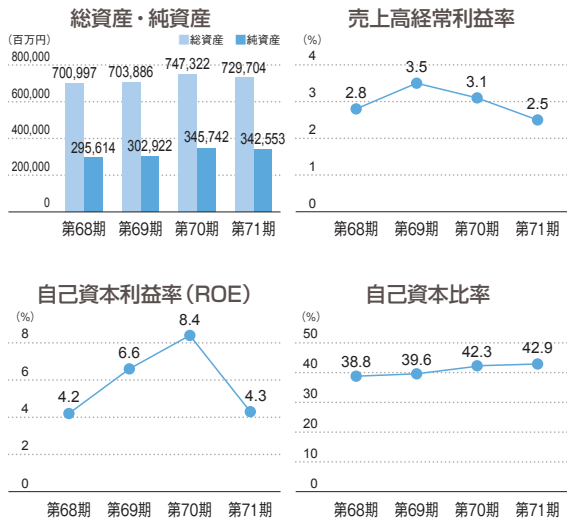
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	増減
	平成30年1月1日から平成30年12月31日まで	平成29年1月1日から平成29年12月31日まで	
売上高	1,059,442	1,053,164	6,277
売上原価	681,877	672,657	9,220
売上総利益	377,564	380,507	△2,942
販売費及び一般管理費	353,221	350,419	2,801
営業利益	24,343	30,087	△5,744
営業外収益	3,778	3,466	312
営業外費用	1,492	1,410	81
経常利益	26,629	32,143	△5,514
特別利益	428	12,724	△12,296
特別損失	3,434	3,493	△59
税金等調整前当期純利益	23,623	41,374	△17,751
法人税等合計	9,111	10,710	△1,598
当期純利益	14,511	30,664	△16,153
非支配株主に帰属する当期純利益	976	5,557	△4,581
親会社株主に帰属する当期純利益	13,534	25,106	△11,571

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当期	前期	増減
	平成30年1月1日から平成30年12月31日まで	平成29年1月1日から平成29年12月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	49,947	56,663	△6,715
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,005	△33,980	△15,024
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,708	2,142	△25,850
現金及び現金同等物に係る換算差額	△64	83	△148
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△22,830	24,909	△47,739
現金及び現金同等物の期首残高	129,253	104,344	24,909
現金及び現金同等物の期末残高	106,423	129,253	△22,830

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額	為替換算調整額	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	11,014	9,667	276,934	△897	296,718	33,915	99	△44	△14,526	19,443	29,580	345,742
当期変動額												
剰余金の配当			△5,047		△5,047							△5,047
親会社株主に帰属する当期純利益			13,534		13,534							13,534
自己株式の取得				△4,343	△4,343							△4,343
連結子会社の増資による持分の増減		△0			△0							△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△1,499	-	△104	△5,718	△7,323	△10	△7,333
当期変動額合計	-	△0	8,487	△4,343	4,144	△1,499	-	△104	△5,718	△7,323	△10	△3,188
当期末残高	11,014	9,667	285,422	△5,241	300,862	32,416	99	△149	△20,245	12,120	29,570	342,553

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表（単体）

貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期末	前期末	増減
	平成30年12月31日現在	平成29年12月31日現在	
資産の部			
流動資産	150,526	167,111	△16,584
固定資産	395,056	393,625	1,430
有形固定資産	210,813	206,616	4,196
無形固定資産	3,365	4,597	△1,232
投資その他の資産	180,877	182,411	△1,533
資産合計	545,582	560,736	△15,153
負債の部			
流動負債	149,189	153,410	△4,221
固定負債	97,233	109,622	△12,388
負債合計	246,423	263,033	△16,609
純資産の部			
株主資本	267,221	264,281	2,940
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,676	9,676	-
利益剰余金	251,772	244,488	7,284
自己株式	△5,241	△897	△4,343
評価・換算差額等	31,937	33,422	△1,484
純資産合計	299,159	297,703	1,455
負債純資産合計	545,582	560,736	△15,153

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	増減
	平成30年1月1日から平成30年12月31日まで	平成29年1月1日から平成29年12月31日まで	
売上高	748,319	744,922	3,397
売上原価	502,756	496,529	6,226
売上総利益	245,563	248,392	△2,829
販売費及び一般管理費	228,474	225,467	3,007
営業利益	17,088	22,925	△5,837
営業外収益	4,813	4,585	228
営業外費用	1,162	1,083	78
経常利益	20,739	26,427	△5,687
特別利益	140	439	△298
特別損失	2,443	1,977	466
税引前当期純利益	18,435	24,889	△6,453
法人税、住民税及び事業税	5,814	7,496	△1,682
法人税等調整額	290	△418	709
法人税等合計	6,104	7,077	△972
当期純利益	12,331	17,811	△5,480

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書（平成30年1月1日から平成30年12月31日まで）

(単位：百万円)

	株主資本										自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	その他利益剰余金									利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		配当準備積立金	退職給与積立金	圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
当期首残高	11,014	9,664	12	9,676	2,753	6	500	641	221,280	19,306	244,488	△897	264,281	33,422	297,703
当期変動額															
剰余金の配当										△5,047	△5,047		△5,047		△5,047
圧縮記帳積立金の取崩								△18		18	-		-		-
別途積立金の積立									13,400	△13,400	-		-		-
当期純利益										12,331	12,331		12,331		12,331
自己株式の取得												△4,343	△4,343		△4,343
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）														△1,484	△1,484
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	△18	13,400	△6,097	7,284	△4,343	2,940	△1,484	1,455
当期末残高	11,014	9,664	12	9,676	2,753	6	500	623	234,680	13,209	251,772	△5,241	267,221	31,937	299,159

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

YAMAZAKI インフォメーション

～ヤマザキ「春のパンまつり」～ “白いフローラルディッシュ”プレゼント!

平成31年2月1日(金)から4月30日(火)までの期間、ヤマザキ「春のパンまつり」を実施しております(北海道地区は3月1日(金)から5月31日(金)までの期間)。

対象商品に貼付された点数シール25点につき“白いフローラルディッシュ”を必ず1枚プレゼントいたします。

さらに今回は、ダブルチャンスとして“大きなエコバッグ”を抽選で50,000名様にプレゼントいたします。

詳しくは、店頭シールの台紙または当社ホームページ等をご覧ください。



「春のパンまつり」キャンペーンページアドレス

<http://www.yamazakipan.co.jp/campaign/2019/spring/>



株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様(ご所有株式数1,000株以上)に対し、市価3,000円相当の自社製品の詰め合わせを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けする予定のものです。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象といたします。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、製品情報や季節のレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



<http://www.yamazakipan.co.jp/>

株式の状況 (平成30年12月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	13,687名 (前期末比3,758名減)

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	15,602,895	7.1
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	5.7
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.0
三菱商事株式会社	9,849,655	4.5
住友商事株式会社	9,355,000	4.3
丸紅株式会社	8,165,880	3.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,620,300	3.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,576,800	3.4
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	2.9
株式会社みずほ銀行	3,946,419	1.8
株式会社三井住友銀行	3,946,419	1.8

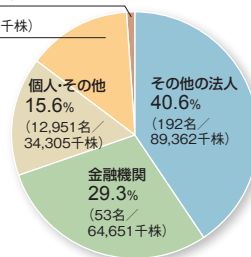
(注) 持株比率は、自己株式(2,891,339株)を控除して算出しております。

株式分布状況

●所有者別

証券会社 0.9%(26名/2,011千株)

外国人 13.6%(465名/29,951千株)



●所有株数別

100株未満 0.0%(924名/27千株)

100株以上 0.5%(5,471名/1,213千株)

1,000株以上 5.6%(6,808名/12,286千株)

1万株以上 4.3%(338名/9,476千株)

10万株以上 7.5%(80名/16,441千株)

50万株以上 82.1%
(66名/180,838千株)

役員・従業員 (平成30年12月31日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	取締役	吉田谷良一
取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	山田 裕樹
専務取締役	横濱 通雄	取締役	荒川 弘
専務取締役	会田 正久	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
専務取締役	犬塚 勇	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	関根 治	常勤監査役	大本 一弘
専務取締役	深澤 忠史	常勤監査役	松田 道弘 (社外監査役)
常務取締役	飯島佐知彦	常勤監査役	松丸 輝夫
常務取締役	園田 誠	監査役	村上 宣道 (社外監査役)
取締役	荘司 芳和	監査役	齋藤 昌男 (社外監査役)

従業員

連結	28,363名 (男性21,792名、女性6,571名)
当社	19,478名 (男性15,614名、女性3,864名)

重要な子会社

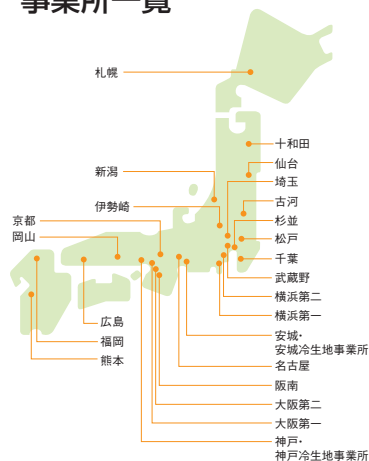
会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	53.9	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造及び販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造及び販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	480	100.0	ベーカリーカフェの経営
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造及び販売
株式会社イケダバン	1,250	80.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造及び販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc. (米国)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造及び販売並びにベーカリーカフェの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造及び販売並びにインスタベーカリーの経営
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造及び販売
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造及び販売
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造及び販売
株式会社末広製菓	100	100.0	米菓、調理パン、米飯類等の製造及び販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティックス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理及び工事の請負

(注) 1. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。

2. (株)サンロジスティックスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。

3. 連結子会社は、上記重要な子会社16社を含む28社であります。

事業所一覧



本社 東京都千代田区岩本町3-10-1
松戸工場 千葉県松戸市南花島向町319
千葉工場 千葉県千葉市美浜区新港22
武蔵野工場 東京都東久留米市柳窪2-5-14
埼玉工場 埼玉県所沢市坂之下85
杉並工場 東京都杉並区高井戸西3-2-30
横浜第一工場 神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15
横浜第二工場 神奈川県横浜市都筑区東方町188
古河工場 茨城県古河市丘里7
伊勢崎工場 群馬県伊勢崎市粕川町1801
仙台工場 宮城県柴田郡柴田町槻木白幡2-9-1
新潟工場 新潟県新潟市江南区二本木4-12-8
十和田工場 青森県十和田市稲生町1-13
札幌工場 北海道恵庭市恵南10-1

大阪第一工場 大阪府吹田市幸町29-1
神戸工場 兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
大阪第二工場 大阪府松原市三宅東2-1835-5
阪南工場 大阪府羽曳野市広瀬161
京都工場 京都府宇治市榎島町目川100
名古屋工場 愛知県名古屋市中区玉池町36
安城工場 愛知県安城市二本木新町2-1-3
岡山工場 岡山県総社市井尻野800
広島工場 広島県広島市安佐北区大林2-3-1
福岡工場 福岡県古賀市古賀69
熊本工場 熊本県宇城市松橋町浦川内2388
安城冷生地事業所 愛知県安城市二本木新町2-1-3
神戸冷生地事業所 兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
海外駐在員事務所 米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公 告 方 法	電子公告によるものとし、当社のホームページ (http://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株 式 の 上 場	東京証券取引所市場第1部

株式に関する手続き

- 株式に関する各種手続き(住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取り扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種手続き(証券会社の口座への振替(※)、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、三井住友信託銀行にてお取り扱いいたします。

(※)証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。

・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取り扱いいたします。
- 配当金のお支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。確定申告をなさる株主様は、大切に保管ください。なお、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付書類につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。